

富岡地域づくり 協議会だより



第19号

令和元年7月10日

広報委員会

<http://www.town-tomioka.click/>

富岡地域づくり協議会総会が開催されました



令和元年5月25日(土)15時より富岡まちづくりセンターにて、富岡地域づくり協議会総会が開催されました。平成26年9月にこの組織が発足して以来6年目を迎えることとなります。

議長より挨拶がありました。続いて、鹿島輝雄副会長から本組織の概要説明がありました。富岡地域づくり協議会が、地域の皆さんにどのくらい浸透し、いかに認知・認識されているか十分把握しきれない状況にあり、今回も説明

の時間をとっていこうとする趣旨からのものでした。読者の皆様により具体的にご理解いただけるように、本人より原稿をいただいております。

原文のままここに掲載します。

尚、「富岡地域づくり協議会の概念」という資料もいただいておりますので、併せてご覧ください。

「地域づくり協議会について」



1. 概要

日本は1960年代以降目覚ましい経済発展を遂げた。他方、過密や過疎が進み地域社会に様々な課題を残した。

高度経済成長の過程で都市に労働力(新住民)が急増し住民層の異質化と流動化が、農村では住民が流出し過疎化が進み、地縁を基盤とした地域共同体が大きく変化した。

そして生活圏の広域化、核家族化、個人化、生活様式の多様化により、地域における帰属意識や連帯意識が次第に希薄化し伝統的な地域共同体としての基盤が崩壊すると共に、高齢化社会の進展と相まって、新たな地域問題が生じることとなった。

バブル崩壊後、高度成長期も終焉を迎え、価値観が“モノの豊かさ”から“ココロの豊かさ”そして量から質への転換が始まり、生活基盤としての地域社会の再構築が求められる状況下、新たな地域住民組織として「地域づくり協議会」が発足した。

富岡地域づくり協議会はウォークラリー大会など着実に活動を進め6年目を迎えている。

2. 目的

富岡地域づくり協議会は地域のことを考える組織体として下記を基本に活動をしている。

- 1) 統合された地域への交付金、委託金の受け皿になるなど新しい地域自治の仕組みを構築する。
- 2) 今まで別々に活動することが多かった地域の団体が同じ組織の間として地域の課題を共有し、課題解決を図る。統合された地域への交付金、委託金の受け皿になるなど新しい地域自治の仕組みを構築する。
- 3) 行政や自治会と相互補完関係を築く。

3. 組織

各々の課題を担当する5部会からなり、各種団体は希望する部会に所属する。事務局、広報委員会は部会を側面からサポートする。

富岡地域づくり協議会概念

環境 **安全安心** **コミュニティ** **文化産業** **スポーツ** **福祉**

環境部会	安全部会	コミュニティ部会	学習・振興部会	福祉部会
環境推進委員協議会 エコネットくぬぎ山	防犯協会 交通安全協会 消防団第5分団 消防団第5分団協力会 富岡中学校PTA 富岡小学校PTA 中富小学校PTA 西富小学校PTA スクールガード 青少年育成推進員 青少年を守る会連合会	自治連合会 (18自治会)	まちづくりセンター 協力会 学校開放運営委員会 スポーツ推進委員 体育協会 母子愛育班	民生・児童委員協議会 社会福祉協議会 更生保護女性会 長生クラブ連合会 日赤奉仕団 みまもり相談員 おっぺすとみおか 包括支援センター



事務局・広報委員会

<編集後記>

6月7日、東海、北陸、東北南部とともに関東甲信も「梅雨入りしたとみられる。」と気象協会より発表がありました。関東甲信はほぼ平年並みの梅雨入りだそうです。

この梅雨は、オホーツク海高気圧と小笠原高気圧の勢力がきっこうし、本州の海岸に前線が停滞するため起こる現象で、日本付近でしかみられないようです。前線が停滞すると、その付近で暖気団と寒気団が衝突し、寒気団が暖気団の下にもぐりこむため、暖気団の中に含まれている多量の水蒸気が冷却されて雲ができたり、雨が降ったりするのだそうです。

うっとうしい・蒸し蒸しする・じめじめする・雨具や傘を用意するのが大変等々のマイナス面が頭をよぎりますが、農産物にとっては恵みの雨にもなります。また、色とりどりの紫陽花を愛でることもできる等のプラスの考えもできるのではとも思います。

折しも、この時期は梅の収穫期でもあります。ある気象予報士が「梅の収穫期が梅雨入りの目安のひとつである。」と言われていたことを思い出しました。

この収穫した青い梅は、塩漬けにして、紫蘇の葉を加えて漬けた後、土用の熱い日光に三日三晩さらすと梅干しができあがります。

昔は、各家庭の庭に干された梅が並んでいました。この光景が富岡の昔の風物詩のひとつともいえるかもしれません。

日本特有の梅雨という時期を受け入れつつ、日本独特の季節感を味わってみるのもいかがでしょうか。